

生理人類士 認定制度の御案内

日本生理人類学会は、人類の本質に基づく、健康で快適な環境の構築、評価、問題解決に携わり得る人材育成のため、西暦2000年に生理人類士認定制度を創設しました。これまで多くの方々が生理人類士資格を取得し各分野で活躍されています。当委員会は、これまでの取り組みを踏まえ、資格内容の一層の充実を目指しています。

本制度の資格には下記3種があります。

(1) アメニティプランナー

(生理人類士1級)

(2) アメニティコーディネーター

(生理人類士準1級)

(3) アメニティスペシャリスト

(生理人類士2級)

(1)および(2)は日本生理人類学会員の内、前者は企業や大学等において豊富な実績のある方々を、後者は現在御活躍中の方々を対象としています。また(3)は本学会への所属は問わず、大学、短期大学等の学生あるいは社会人など、広く対象としています。

日本生理人類学会ホームページ「学術活動」を御覧下さい。

<http://jspa.net/>

巻頭言

地球環境問題と生理人類士

橋本修左 (武蔵野大学名誉教授)

近年、温暖化とそれに起因する気候変動による地球環境の危機が強く叫ばれるようになりましたが、これらの活動に対して科学的検証が弱いとか、対策が困難であるなどという理由で積極的な対応に取り組まれていないということが多々指摘されています。危機管理のために国連や世界のNPOなどによる諸活動が次第に強められつつありますが、とりわけ若い多くの人々による環境活動はいま大きな社会的注目を浴びています。

生理人類学会では生理人類学の重要なキーワードとして「環境適応能」や「テクノアダプタビリティ」を取り上げて活動が続けられてきていますが、これらのキーワードは先に述べた温暖化や気候変動の問題、そしてそれらが地球に生きる人類に及ぼす影響という点で生理人類学と密接に関係するものであると思われまます。生理人類士は、学術的発展と社会的貢献を目的とした資格認定制度として2000年にスタートし、現在までに生理人類士1級41名、準1級183名、2級1543名と多くの資格取得者が誕生しています。しかし、この資格者数は前述した地球環境と人類に関わる諸問題に対する生理人類学的視点からの情報発信や社会的貢献という点ではまだ十分ではなく、とりわけ若い人々の参画が求められています。また、これは生理人類学会の今後の伸長ともリンクしているように思えます。もっと多くの若い人々が生理人類学会に参画して資格を取得し、生理人類学的視点から地球環境と人類の問題に取り組んで頂けるように皆さまに資格取得を広く強く呼び掛けて頂きたいと思ひます。



2019年度<秋試験> 生理人類士優秀賞 受賞者

<<準1級>> (2名)

小山恵理(実践女子大学)、本間博也(東北文化学園大学)

<<2級>> (5名)

佐藤理沙(武蔵野大学)、藤澤真子(実践女子大学)、高須衣玖(金城学院大学)、淡路夏海(東北文化学園大学)、高橋輝也(東北文化学園大学)

指定校認定申請要領

生理人類士指定校に認定されると、受験者には、受験料の割引をはじめ多くの特典が与えられます。

認定を申請される場合、下記①、②を封筒に入れ、「指定校認定申請書在中」と朱書し、本紙末尾に示す、日本生理人類学会資格事務局へ郵送して下さい。なお、デジタル化した文書の送信による申請も可とします。

不明な点があれば、事務局に照会して下さい。

①指定校認定申請書

(様式 B-1※)

代表者の署名と押印を必要とします。代表者には各教育機関の事情に応じて適切な人物を充てて下さい。なお、指定校責任者は代表者となることができます。指定校責任者の役割は、受験者の統括、試験問題の管理、試験の実施、試験監督等です(認定制度規程※参照)。

②資格要件に関わる開講科目

一覧表(様式 B-2※)

生理人類士準1級および2級における受験資格要件に該当する、開講されている科目のリストを作成してください。単位数は各教育機関の学則に準じるものとします。なお、一人の指定校責任者の下、複数の学科あるいは専攻をまとめて申請することができます。その場合、学科あるいは専攻ごとに書類(様式 B-2※)を作成して下さい。

※学会ホームページにてダウンロード出来ます。

<http://jspa.net/>

寄稿

多様性の時代

平林由果(金城学院大学)

昨年、車いす利用者が「バスに乗車拒否された」とSNSで発信したことがニュースで話題になった。

車いす利用者がバスに乗車しようとしたところ、運転手から次のバスに乗車するように告げられ、乗車させてもらえなかったのだ。その理由は、「発車時刻が迫っていたため、車いす利用者を乗車させるのに時間が掛かり、出発時刻が遅れると他の乗客(多数派)に迷惑が掛かる」と判断したため、と説明されていた。車いす利用者は、次のバスまで待たなければならず、しかも乗車できる保障はなかった。運転手の判断は、正しかったのだろうか?バスの乗客の多くは、運転手の判断は正しかったと考えるかもしれない。一人の車いす使用者(少数派)が無視された形になっても……。

多様性推進の鍵は、少数派を孤立させないことにある。欧米では、車いすの人も一緒に電車やバスに乗車するし、乗車するまで待ったり、周りの人が自然と手助けをしている。

今年、東京オリンピック、パラリンピックが開催される。あらゆる国の人々、様々な障がいのある人々が来日する。多様な人々に日本人は対応できるだろうか。日本でも多様性を認めることが推奨されつつあるが、その実現のためには、多様性の教育と啓蒙が必要なかもしれない。



2019年度<秋試験> 資格認定者

《準1級》(4名)

小山恵理(実践女子大学)、
佐藤 智耶・佐藤知之・本間博也(東北文化学園大学)

《2級》(43名)

浦野楓・鈴木智恵子・岡田真季・陳燕申・袁瑞齊・小室彩華・佐藤理沙(武蔵野大学)、石田光里・和田李菜・小川夏美・工藤祐加・輿石菜月・高橋茉彩・高山結衣・藤澤真子・松橋未来・宗形菜智友(実践女子大学)、高須衣玖・浅田麻琴・川浪綾華・小林真由(金城学院大学)、伊藤稜祐・大滝進悟・高橋耕太・中島飛翔・淡路夏海・安藤正尊・磯貝謙伍・大見結葉・柿崎可奈子・加藤陸央・菅野愛那・齋藤華帆・佐藤功弥・佐藤兼夢・佐藤颯斗・鈴木拓郎・高橋一真・高橋輝也・高橋義延・高橋琳花・得永尚弘・永浦響(東北文化学園大学)

生理人類士 準1級

生理人類士を続けて受験した理由

小山恵理（実践女子大学 生活科学部）

私は昨年度、本資格の2級を得て、今回準1級にトライした。なぜか。上流側に向かってひたすら泳ぐサカナに似た、私の性格によるのだろう。他の理由としては、私は山崎先生による特訓のひとつが好きなのである。コーヒーを煎れて下さり、お菓子を食べながらの特訓である。「この正解例には不備があります。しかも長すぎる」といった調子が続く。やがて自分は確実に合格するという安心感を抱く。

私が続けて受験した理由は以上である。まだ紙幅があるので、いま取り組んでいる卒業論文について述べたい。被験者に目隠しをしてノルディックポール・ウォーキングをしてもらうのであるが、「真っ直ぐ進んで下さい」と依頼する。距離は15mである。目標地点から発せられる音刺激の有無について比較すると、当然、音がある方が到達点での誤差が少ない。集団でガヤガヤと移動する際、それが長時間に渡ると半分眠りたいことがある。そうした時、音が頼りになるなら、視覚への依存度は低くて済むだろう。

生理人類士準1級を受験して

本間博也（東北文化学園大学 科学技術学部）

私は健康住宅と快適な空間づくりに興味があり、人の構造やメカニズム、生理機能を知ることは快適さを求める上で関連性が高いと考え、本資格を受験しました。

受験を通して感じたことは、人にモノを提供する仕事をするには必要な知識が詰まった内容だということです。人にモノを提供するということは、いかにヒトについて知っているかが大事です。ユニバーサルにするにしても、より専用のモノを作るにしても、相手がどのような人なのかがわからなければ、使い易く、快適なモノは作れません。人を相手にするにはヒトを知る。そのためにも必要な学問だと思いました。

また、生理人類学は人に関する知識が得られ、どの分野でも無駄になることなく幅広く活用することができます。文系・理系関係なく有効に知識が活かせるので非常に汎用性が高い資格だと感じました。

生理人類学について学び、あらゆるものにどのような工夫が施されているか考えるようになりました。この度得た知識を今後の研究に活かしたいです。

生理人類士 2級

生理人類士を受験してみた

佐藤理沙（武蔵野大学 人間科学科）

私がこの生理人類士2級を受験しようと思ったのは、生理人類学という授業を受け、もっと学びを深めたいと思ったからです。

始めは生理人類学というものがどんな学問なのかよく分かりませんでした。しかし授業を通して、また資格取得を目指し勉強していく中で、人間の生活をより良いものにするために関する知識を得ることが出来ました。睡眠や住居環境の分野など、どれも生活に活かすことが出来るものです。睡眠の過程を詳しく学んだことで、自分の睡眠を見直したり友人や家族に助言をしたりしています。また、人類の発達や汗の仕組みなど初めて知るものもあり、とても興味深かったです。人類の歴史や発達を学び、現代は本当に便利になっていると実感しました。便利になっているからこそ、私たちに求められるものや適応するためにはどうしたら良いのかななどを考え直すきっかけになりました。

今後はこの資格を少しでも自分の生活に活かしたいです。また、さらに勉学に励みたいです。

資格取得の喜びを実感

藤澤真子（実践女子大学 生活科学部）

本学の生活環境学科には合計10の研究室があり、私は生理人類学研究室に所属しています。実験科目に「生理人類学実験」があり、生体電気、環境生理学、感覚生理学などに関わる様々な生理心理の実験を行っています。友人と自分の計測結果を比べることにより、自分の位置づけについて理解することができます。

一番印象に残っているものは「皮膚電気活動」です。これは皮膚電位モニタを用いて行う実験であり、精神的動揺がもたらす手の精神性発汗を観察しました。自分では感じていないようであっても反応が認められるという貴重な体験でした。

このような実験をすることによって、いろいろなテーマが身近な日常生活に繋がっている事に気づき、そして自分の体の事を深く知る事ができました。これからもっと快適な生活を送れるように多くの面から研究していきたいと思っています。

自分の好きな勉強の分野で賞をいただいた事は自信につながり、これからも頑張ろうという気持ちになりました。

次に活かす

高須衣玖（金城学院大学 生活環境学部）

私がこの試験を受けようと思った理由は、授業で学んだことを生かしたいと思ったからです。最初は単純に資格が欲しいという理由でしか考えていなかったのですが、勉強していくうちに徐々に楽しくなってきました。その理由は試験の内容が授業範囲と同じ部分・授業範囲外の部分があり、自身の勉強を楽しんでできたからです。

授業範囲と同じ部分は自身の復習にもなり、また授業で理解しきれていなかった部分を理解することができ、授業の内容をより深く学ぶことができました。いざ勉強を始めてみると知らなかったことの方が多く自分の知識不足を感じましたが、知らないことを知る楽しさやより深く知ることの大切さも感じることで積極的に学習し知識を増やすことができました。

今後はこの資格を取得するために学んだことを活かし生活環境の改善や、あらゆる人が快適な生活をするための役に立てていきたいです。また、次の目標としては生理人類士準一級取得を目指して頑張りたいです。

生理人類学と環境の関わり

淡路夏海（東北文化学園大学 科学技術学部）

建築環境学を学ぶ中で、「アメニティと環境」という科目を受講しました。最初は建築とどのような関係があるのかわかりませんでした。講義が進むうちに健康で快適な住環境を提供するならば人体の構造、私たちを取り巻く環境を知ることが大切だとわかりました。これらを知ることで机、椅子の高さ、1時間当たりの換気量などはなんとなくという

理由ではなく、身体、環境に基づいて決められていることがわかり受講前よりも理解が深まりました。遺伝子、発汗作用、衣服についてなど試験範囲が幅広く、また内容も難しいので試験勉強は大変でした。演習問題を繰り返し解くだけでなく、教科書を何度も読みきちんと理解することが大切だと思います。

環境問題の深刻化、急速な技術の発達により、私たちの生活は大きく変化していくと思います。生理人類学に基づき環境にあった室内環境、人の身体機能の異常を防ぐために技術に頼りすぎない生活スタイルを確立していけたらと思いました。

生理人類士試験をうけて

高橋輝也（東北文化学園大学 科学技術学部）

私は建築環境学科に在籍しており、建築士の取得を目指して勉強しています。大学2年生になり科目の1つにアメニティと環境というものがありました。そこで生理人類学を学び、ヒトの身体の構造や感覚、衣食住、音環境、睡眠などに関する内容があり建築分野を学んでいる私にとってとても重要なことだと感じ今回この試験を受験しました。

試験勉強中は聞いたことのない専門用語などが多くて難しいと感じる場面もありましたが、それと同時に知識も増えていきとても刺激的な期間になりました。現代社会でストレスを多く抱える人が、健康的で快適に暮らせることがなによりも重要だと感じました。

今後、建築士になることができれば私はその快適に暮らせる環境を作る立場の人間になります。そのときは今回得た知識を活用して取り組んでいきたいです。また、自分の生活の一部にも取り込んでいこうと思います。

2020年度 資格認定試験日程

<秋試験>

申込期間 2020年9月11日(金)～10月2日(金)

試験日 準1級・2級：I期 2020年11月28日(土)

II期 2020年12月5日(土)

1級：相談の上決定

<春試験>

2020年度の春試験は中止になりました。

日本生理人類学会資格事務局

所在地 : 〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5

アカデミーセンター

電話 : 03-6824-9369

FAX : 03-5227-8631

MAIL : jspa-post@bunken.co.jp

生理人類士認定制度ホームページ
<http://jspa.net/certification>